

# 横浜市立緑園東小学校 平成28年度 学力向上アクションプラン

## 1 学校の状況と地域の状態

(1)

- ① 学力の高低に関わらず、自尊感情や学習意欲が高くない児童がいる。
- ② 教育に対する家庭の意識が高く、帰宅後も習い事や学習塾に通う児童が多い。
- ③ 中学受験志向が強く、約半数の児童が私学受験をしている。

(2)

- ① 学力向上部会が主導で、横浜市学力学習状況調査の分析をし、それを基に課題の把握と対策を立てている。年間を通じた授業発表やメンターチームでの研究が活発に行われている。
- ② 主体的に考えを深める子の育成をめざして、あらゆる学力層に応じた指導の手立てを考えている。

(3)

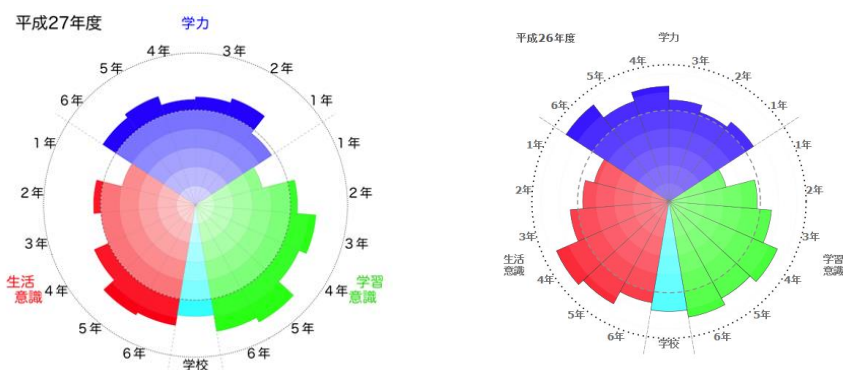
- ① 地域の方々と児童のつながりを大事にし年間を通じて直接本校の学習活動にかかわってもらっている。
- ③ 特別支援教室の設置、TT指導、習熟度別授業、交換授業、少人数指導、学生サポーター、非常勤講師など学年、学級の実態に応じて多様な指導体制を組んで、きめ細かな指導に当たっている。

## 2 今年度の方向(中期学校経営方針)

### 学力向上に関する指導の目標・方針（平成28年度末の姿）

- 児童が自ら学校図書館を活用し、テキストを入手・読解・まとめ・発信できる力がついている。
- 子どもがPDCAサイクルを循環させることでメタ認知力を高め、自らめあてを立てて学べるようになっている。
- 市学力学習状況調査の結果が向上している。
- 児童の自尊感情の向上が見られる。

## 3 横浜市学力学習状況調査等からの平成27年度の実態把握



### (1) 学力の概要と要因の分析

学校全体では、ほぼすべての学年においてすべての教科が横浜市の平均的な学力よりも上回っている。(1年生国語例外) ほとどの学年でも、学力層Aの児童が国語・算数で4割、社会・理科で3割いる。その一方で、学力層Dの児童も1～2割ほどいて、学力差がもともと大きいと言える。算数がよくわかるが高学年になっても7割ほどいる。また、国語が良く分かるについてもどの学年でも6割ほどいる。

## (2) 教科学習の状況

- 国語科：話す・聞くの伸びが著しいが、読む力の伸びは課題である。
- 算数科：知識理解がどの学年でも向上しているが、考え方の向上が課題である。
- 社会科：思考・判断・表現は伸びているが、知識理解については課題である。
- 理科：どの学年も概ねすべての観点において向上が見られた。

## (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査含む）

横浜市の平均的な学力と比較した場合、本校ではほぼすべての学年において平均を上回る結果が出た。昨年度課題となっていた、知識理解の部分の伸びが著しいことから、児童主体の学習が思考力・表現力のみならず、知識理解の分野においても効果的に働いていることがみてとれた。

学力層においては、国語と算数において緩やかではあるが全体的に A 層が増加、D 層が減少の傾向にある。社会・理科においては、学年による違いはあるが概観として A 層が減少、D 層が増加していると思われる。これについては新たな手立てが必要な部分である。

学習意識については、年度によるばらつきはあるものの、全体的に「好き」と答えている児童が過半数いる。生活意識の、自尊感情において低学年で低い傾向にあり、中学年、高学年の向けて向上してくるという傾向は昨年度同様である。このことは、学校教育の中で互いに認め合い自分も認める環境が整っており、実際にそれが機能しているからだと思われる。

## 4 平成28度 目標と具体的方策

### 平成28度 目標

自らテキストを「集め・読解し・まとめ・発信」することができる子どもの育成

～ 学校司書との連携による学校図書館の効果的な活用 ～

### (1) 学校組織としての共通の取り組み

#### ○学校図書館活用と学校司書連携をします

各教科での資料活用型授業の工夫、並行読書のさらなる充実等、学力の基盤となる読書活動、主体的な学習を推進する「自ら調べる活動」の充実を図ります。

#### ○めあて学習を行います

子ども自身による PDCA サイクルを意識した学習を進め、学習の見通しと自身の学習状況をしっかりとつかめるように「自己評価力」を育成します。

#### ○協働による学び合いをします

子ども司会、学習集団の多様化等、全教科における説明的活動やグループ話し合い活動による「思考活動」の深化・拡充を図ります。

#### ○知識を活用し、さらに探究する学習にします

各教科における発展的学習やボランティア・地域施設との連携等、キャリア教育や地域参画活動と体験学習の充実を図り、「横浜の時間」の構築とカリキュラム化を行います。

#### ○姉妹校交流の一層の充実を図ります

オーストラリア MPW 小学校との交流を充実し、コミュニケーション能力や外国への関心・意欲を高めます。

#### ○個に応じた指導の充実を図ります

学習のユニバーサルデザイン化、学習習慣、マナーの確立、基礎・基本の確実な習得、補充・発展の工夫、指導と評価の一体化